

## 正副議長定例記者会見（令和6年9月定例会）

日時：令和6年10月9日（水）13：15～13：33

場所：観光スポーツ文教警察委員会室

三宅議長



松尾副議長



（時事通信社：幹事社）

定刻になりましたので、正副議長の記者会見を始めさせていただきます。なお、議長は次の公務がありますので、記者会見の時間は13時35分までとさせていただきます。

まず初めに、議長から挨拶をお願いします。

（議長）

はい。まずは今日、9月定例会を終えることができましたが、メディアの皆さんにおかれては終始熱心に取材にお取り組みいただき、本当にありがたく思っております。

今回の9月定例会ですが、まず1つ目は、能登半島地震を踏まえた防災減災対策、この議論を行っている最中に、もう今日で2週間と少々経ちますけれども、今度は能登半島を大変な大雨が襲いました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心より御見舞いを申し上げたいと思います。

この防災減災対策の議論をさせていただいて、そしてもう1つは、この少子化や人口減少対策についても、かなり具体的に踏み込んだ議論も今回できたと思っております。

そして、本県の企業が海外展開をやっていく、その推進などを通じて、地域経済をもっと活性化していこう。我々の周りを取り囲む諸情勢、相当変化をしておりますが、そういった変化に対して即応していける、そういった議会の議論の内容になったことは、そこに関わっていただいた議員各位に感謝を申し上げたいと思っております。

また、予算以外の面では、県民文化会館南側県有地の活用方法の議論や松山市緑町の土砂災害の対応状況、こういったことも本当にしっかりと議論をいただいておりますこと、これは本当に活発な議論に感謝をしているところであります。

こういった、本当に党派会派を超えた各議員の先生方の取り組みが、1日も早く、我々の愛媛の未来に繋がっていくことを強く願って冒頭のご挨拶に代えたいと思います。

以上です。

(時事通信社：幹事社)

続いて、副議長からご挨拶をお願いします。

(副議長)

はい。私といたしましても今期定例会では、当面する県政の諸課題についてしっかりと、委員会や本会議での議論が行われたものというふうに認識をしております。

以上です。記者会見どうぞよろしくをお願いします。

(時事通信社：幹事社)

ありがとうございました。代表質問がありますので確認したいと思います。6月議会の議決を経て、8月にインドへの海外派遣が実施されましたが、提案した議員本人が自己都合によりキャンセルしたと聞いております。議長の受け止めと今後の対応策などを検討していればお伺いしたいです。

(議長)

はい。ご質問ありがとうございます。

この海外派遣は、ちょうど任期がスタートした時に、各会派の代表者会議を開き、海外派遣の基本方針というものを定めたところであります。それに基づいてやっていこうということで進めてきたところでありますけれど、議員の側から提案を受けて、それが適当なものであるかどうかを判断して、議決するという流れになっております。

今回のインド派遣というのは、県が今進めていただいております県内企業のインドにおけるビジネス機会をどう作り上げていくか。また、人材交流の促進、こういったこともやっていこうというものでありまして、県議会としても、これに取り組むというのは大変意義のあること、また、議会としてもふさわしい提案だと思って、議決をさせていただいたところでありました。実際、黒川前議員におかれても、主体的に企画立案に携わっていただいて、本当に熱意を持ってやっていただいたものと思っています。おっしゃられたように、自己都合で、その後、前議員におかれては、状況変化があったと拝察しますが、それでも議場で議決したことが、その形のとおりに行えなかったという点においては、議長としては大変遺憾に思うところであります。

しかしながら、このことを最も残念に思っているのは、黒川前議員ご本人だろうと拝察をしているところであります。

今後のことでございますけれども、これは、今申し上げたとおり、議決したことがきちっと形にしていけるということは、当たり前でなくてはならないのでありますけれども、今後、立案者かどうにかかわらず、きちんと決まったとおりに行えるかどうか、これを議決の前にもっとしっかりと確認をしていくということ。これを徹底していきたいと思っております。

以上です。

(時事通信社：幹事社)

ただいまのお答えについて、質問があれば各社の方からお願いします。  
なお、質問に対しては、社名及び記者名をお願いします。

(愛媛新聞)

先ほどの代表質問に関連してなんですけれども、黒川前議員の方からは、どのようなご説明があつて辞退されたのでしょうか。

(議長)

私の方には一身上の都合でと。議員をもうすぐ辞めることになるというお話をいただいております。それだけです。

(愛媛新聞)

はい。

(時事通信社：幹事社)

議題に関しまして、質問ある方いますか。

今回の黒川前県議のキャンセルによって、例えばキャンセル料が発生したとかそういった、問題は生じたのでしょうか。

(議長)

おっしゃるとおりで、直前のキャンセルであり、自己都合でありますので、キャンセル料については、黒川前議員にご負担をいただいているということです。

(時事通信社：幹事社)

県の負担というものはないというところ。ありがとうございます。

(愛媛新聞)

すみません、関連してなんですけれども、そもそものキャンセル料というのはおいくらだというのは明かせないのでしょうか。

(議長)

ちょっと今手元に持ってなくて、後程お示しできればと思います。(※)

(愛媛新聞)

はい。

(あいテレビ)

そのキャンセル料を、黒川前議員が負担したというのは、ご自身で負担すると申し入れはあつたということでしょうか。

(議長)

私はそのように承知をしております。

(あいテレビ)

あくまで県議会から負担してくださいとお願いしたわけではなく、ご自身の方から申し出があったということで。

(議長)

私がお願いした覚えはないです。逆の立場でも、自分で払うというふうに思います。

(あいテレビ)

ありがとうございます。

(時事通信社：幹事社)

代表質問に関しまして、他はよろしいですか。

それでは、その他、代表質問以外の質問がございましたらお願いいたします。

(愛媛新聞)

本日、衆議院が解散される見込みですけれども、県議会として、議長のお考えとして、どんな議論をこれからの解散総選挙に期待をされるのか教えていただければと思います。

(議長)

はい。まず地方政治に身を置く立場としては、今回、首相の方針演説の中で、地方創生の予算を倍増させるというようなお話もありました。随分以前、12年前かな、同じような時期があったと思いますけれども、あの頃に確か、中央にある組織を地方に移転させていこうというので、確か愛媛県もいくつか希望を出したと思います。その中で、国がやってくれないので、もう事業者がやったというものもあるんですけれども、あの時いろんな議論を国中でやったけれども、文化庁が京都に行ったぐらいだったと思います。今度はそういったことが大きく前に進んで、そして地方が活性化していくような、そういう流れができればありがたいし、そういったところが見えるような議論が今回の解散総選挙の中で見ることでよかったらいいな、そんなふうに思っています。

(愛媛新聞)

関連していいですか。四国の正副議長会議で、防災の話であるとか、新幹線の早期導入とか、これから求めていくという話です。その辺りの議論についてお聞かせください。

(議長)

はい。まず、四国新幹線。これについては、やっと一段階上のところまで4県合意が来ているという認識を持っておりまして、4県が一緒になって、そして四県議長会も一緒になって早期実現を目指していくというところまで来ているんだと思います。早くて30年かなとかお聞きしますが、いずれにしても、我々の次の世代の方のために今でき

ることをしっかりやっていきたいし、そういった思いで今回の総選挙に臨まれる先生方にも頑張ってもらいたければありがたいと思います。

(愛媛新聞)

防災の関連もよろしいでしょうか。

(議長)

防災の方は、ちょうど国土強靱化のための5か年加速化対策が来年度で終わりますが、5年では全然足りないというのが、議長会でも一致した声でした。既に国には四県議長会としても要望しているところですが、先ほど申し上げたように、今回の選挙に臨まれる先生方、党派会派を超えて、命を守る議論なんで、本気でやっていただければありがたいと思っています。

(時事通信社：幹事社)

その他ございますでしょうか。

(NHK)

今のに関連して、地方創生の部分をお伺いしたいんですけども、地域間格差だとか東京一極集中だとかいろいろ問題がある中で、県内への期待というのは。新内閣が発足して、選挙というところですね、そういった流れの中で県内の地方創生に関する期待というのをお聞かせいただきたい。

(議長)

我々のところは、まず東予には、紙産業の集積クラスターがあって、そして、今治では造船のしっかりとしたクラスターもあって、また、松前あたりを見てみると、炭素繊維を加工する企業もしっかりとあって、そういう中にあります。この持ち味がもっと活かされるような形で、それぞれ元気になっていくということ。もう一つは、今日、水産に関する条例、議員提案でやりましたけれども、そこにはちょっと含んでない話ですが、本県には加計学園が今治にありますよね。そこでは、養殖に関し、かなり革新的な技術について、相当進歩が見られているとお聞きをしております。ここがうまく運んでいくと、山の中でも養殖ができるとか、そういう将来がもう間近にやってきているんだと思います。

今ちょうどインドで、これから本県企業をマッチングしていこうというような流れにありますけれども、日本を含め大体、地球上で2~3割の国が今、人口減少にあえいでいます。逆に言うと、残りの7~8割は人口が増えて困っている訳で、そういった国々は、これからたんぱく源はどうするんだとなっており、そういったところに対して、やっぱり日本の中では、この養殖技術は愛媛はトップグループにいると思っています。愛媛が今申し上げたような新しい先進的なものを引っさげて、我が国の人口、そして経済の需要は減りつつあるけれども、外の需要にしっかりと答えていく。そういったところも地方創生の一環として、これから取り組めたらいいのではないかと大変期待をしているところです。

(時事通信社：幹事社)

その他ございますか。

(愛媛新聞)

副議長は、この衆院選での議論、どのようなことを期待していますか。

(副議長)

はい。質問ありがとうございます。

ちょうど記者会見が始まる前に、党首討論が始まっておりましたけれども、今回の衆議院選挙、一番国民の皆さん、信を問われますのは、我々自民党が起こしました収支報告書の不記載による政治不信というのをいかに国民の皆さんに説明責任を果たし、今一度信頼を得るかどうかというふうに思っております。

そういう意味では、我が自民党として新首相になられた石破総裁のもと、党としてどういうけじめをつけて、それだけではなくて、衆議院選挙ですので、この国の未来に向かって、どういう国づくりをしていくのか。20年後30年後の政策づくりを立憲民主党や野党の皆さんも然り、我が党としても、どういう国づくりをしていくのかという政策論争をしっかりと選挙で戦わず中で、失いつつある政治の信頼を今一度取り戻す、こういった国政選挙になればいいと思っております。

(愛媛新聞)

ありがとうございます。

(時事通信社：幹事社)

その他ございますか。私から最後に2人に。

6月議会で風俗案内業の規制の条例が可決されて、10月1日から施行されたかと思えます。最近街に出てないので分からないんですけども、施行を通じてですね、街の様子がどういうふうに変ったかとか、もし最近出かけることがあったらちょっと印象を教えてください。

(議長)

そうですね。まだ様子見の段階だと思うんですよね、始まったところで。まさにこれから、主に県警に取り組んでいただく話になりますけれども、取り組みを進めてみて課題が出たらすぐにフィードバックして修正していくというところを丁寧にやっていただけるように県警には求めていきたいと思っておりますし、そういったことを通じて、安全安心な松山になっていただければと思っております。

(副議長)

はい。私も特段まだ情報は持っておりませんが、一番のミソが学校施設等から距離規制を新たに設けたということですので、今後そういう意味では、子供達にとっても環境の良い街になることを期待して見守っています。もし課題があれば、改め

て議論をしていきたいというふうに思っております。

(時事通信社：幹事社)

ありがとうございます。その他ございますか。

それでは、以上で正副議長の記者会見を終わります。ありがとうございました。

※会見後、キャンセル料が124,000円であることを説明しました。

※議事録については、読みやすさや分かりやすさを考慮し、発言の趣旨等を損なわない程度に整理しています。